

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
 ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

☆認知症について

今回は2号にわたり、認知症について取り上げます。

◆認知症の種類

認知症は、次の①～③すべてが当てはまった場合に診断されます。

- ①年齢を超えた明らかな記憶障害
- ②言葉や動作や理解の障害
- ③上記の障害によって社会生活や仕事に支障が出ている

認知症は大きく分けて以下の4種類に分けられます。また、これらの混合型もあります。

アルツハイマー病	レビー小体型認知症	血管性認知症	前頭側頭型認知症
<ul style="list-style-type: none"> ・脳にアミロイドβやタウたんぱく質が溜まり神経細胞が死滅して発症すると考えられている 	<ul style="list-style-type: none"> ・脳にαシヌクレインというたんぱく質が溜まり、神経細胞が死滅して発症すると考えられている 	<ul style="list-style-type: none"> ・脳梗塞、脳出血などによって脳が障害されることによって発症する 	<ul style="list-style-type: none"> ・原因は不明だが、脳の前頭葉や側頭葉という部位が縮むことで発症すると考えられている
【症状】 <ul style="list-style-type: none"> ・物忘れが目立つ ・物事が段取り良くできない ・日にちや時刻が分からなくなる 	【症状】 <ul style="list-style-type: none"> ・物忘れが目立つ ・実際には存在しないものが見える(幻視) ・手が震えたり、動作が遅くなったりする 	【症状】 <ul style="list-style-type: none"> ・物忘れは最初はそれほど目立たない ・物事が段取り良くできない ・感情の起伏が激しくなる 	【症状】 <ul style="list-style-type: none"> ・物忘れは最初はそれほど目立たない ・わがままな性格になる ・同じ行動を繰り返す(常同行動)

ほかにも、頭部の外傷や脳の疾患、甲状腺機能低下症、ビタミンB12 欠乏症、肝性脳症、アルコール性脳症などが原因になる事もあります。



◆認知症の症状

認知症の症状には、中核症状と、周辺症状があります。

中核症状	記憶障害、失見当(時間などの認識力の低下) 人格変化、失語(言葉が出てこない)など		<ul style="list-style-type: none"> ・改善するのはなかなか難しい ・これらの症状のいくつかが生じる
周辺症状(BPSD)	陽性症状	徘徊、暴力、暴言、大声、幻覚、過食など	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者にとって負担となる症状だが、改善する可能性が高い症状 ・人によっては出ない症状
	陰性症状	無気力、無関心、無言、うつ状態など	

◆認知症の治療

認知症の治療は、まず、身体的原因や服用している薬の影響、周囲の対応の仕方や生活はどうかをチェックします。最初から薬を使うのではなく、「非薬物療法」で、患者さんの不安を和らげる事から始めます。それでもうまくいかない場合は薬物による治療法を試します(薬物療法)。

治療はあくまでも**進行を遅らせるもの**であり、認知症の原因がはっきりしている場合を除いて、根本的な治療法は現在まだありません。

以下に、非薬物療法についていくつか説明します。

回想法	昔の道具や玩具を使い、グループで昔の思い出を語り合うことで精神的な安定を得て意欲を高める
認知リハビリテーション	メモリートレーニング 短い文章を読んだり単語を思い出したり、記憶障害の進行を遅らせる リアリティ・オリエンテーション法 日時や場所などの情報を繰り返し確認し、認識力の低下を防ぐ
芸術療法	美術療法 絵画や工作などの作品をつくる。それを通じて言葉にできない自分の思いや感情を表現する 音楽療法 懐かしい歌を歌ったり、楽器を演奏したりして楽しむ
運動療法	散歩や体操など、負荷の少ない有酸素運動を楽しむ



非薬物療法では、コミュニケーションが活発になったり、自信や意欲が高まったり、生活の支障が軽減されたり認知機能障害の進行を遅らせることが期待できます。

治療の目標

患者さんの生活の質を維持するのが大きな目標です。

- ★認知機能障害の進行を遅らせる(中核症状)
- ★行動、心理症状を改善する(周辺症状)
- ★生活の質を維持する
- ★出来るだけ自立した、その人らしい生活を続けること



先述したように、認知症の周辺症状である暴力、暴言、大声、妄想などは、問題行動ととらえられ、介護者の負担を増やしてしまいます。それまで培ってきた家族との絆を断ち切り、自宅で過ごす事を困難にしてしまうこともあります。

しかし、このような周辺症状が不安で生じるものだったら、自分の気持ちがうまく表せられなくて生じているとしたら。

周辺症状は周囲の対応の仕方では防げるかもしれません。介護の大変さが減るかもしれません。

次号では、認知症の患者さんへの接し方とケアの方法について説明していきます。

文責 高野

参考文献：NHK 名医にQ